

平成30年度学校評価のまとめ

<p>重点 本 年 度 の 目 標</p>	<p>1 望ましい学習習慣、生活習慣の確立 2 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 3 キャリア教育の一層の充実 4 生徒の帰属意識を高める活発な生徒会活動と部活動 5 総合学科としての特色づくりの推進と魅力の発進</p>		
<p>分 掌 学 年</p>	<p>重 点 目 標</p>	<p>具 体 的 方 策</p>	<p>評 価 結 果 と 課 題</p>
<p>総務</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の円滑な運営 P.T.A活動と防災対策の充実 総務部の仕事の見直しと改善 	<ul style="list-style-type: none"> 入学式をはじめとする諸行事において、過去の反省を生かし、早めの計画および円滑な運営を実践する。 P.T.A行事において、より活発な活動が行われるようP.T.A役員と緊密に連携をとり、運営をサポートする。 年2回の防災対策の行事内容を工夫し、防災啓発運動を充実させる。 仕事の公平化を心がけ、必要に応じて内容の改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度は休日が例年より多くなり、様々な行事運営に影響がでる為、他分掌・学年との連携を密にし、円滑な運営を行いたい。 P.T.A活動は、今年度の実施状況、反省等を生かし、多くの保護者の方に参加してもらえるP.T.A運営を心がけたい。 今年度は防災啓発活動を防災訓練、防災講話と2度を実施した。次年度はさらに職員対象の研修を追加し、強化を図りたい。 総務の仕事は多岐に渡るため、個々の特性が生かす仕事の割振りを心がけ、業務の精選、改善等を引き続き進めていきたい。
<p>教務</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科主任会において、社会に開かれた教育課程の編成を目指したカリキュラム・マネジメントの研究 望ましい生活習慣と学習習慣の確立 総合学科の特色を生かし、プレゼンテーション能力の向上を目指した授業展開と発表会の外部への公開 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科・学年が適切な量の課題を設定し、きめ細かく指導を行うことにより、望ましい家庭学習習慣を定着させる。 全教科の授業において、「アクティブボード」を活用した授業に取り組むとともに、公開授業週間の授業参観を義務化し、授業の質を変える契機とする。 総合学科発表会において、全系列の授業や部活動等における取組を発表し、授業改善に役立てる。また、保護者や中教員等と外部で開かれた発表会とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年目を迎えた総合学科発表会について、申し合わせ事項を踏まえ、継続・発展的な実施に向け、関係分掌と連携して改善点を整理し協力して実施していきたい。 A.Lの視点からおすすめの授業に変更し、学校全体で授業改善に取り組んでいきたい。特に、総合学科の特色を生かし、幅広い知識を生徒に身に付けさせたい。 夏季休業明けの課題考査において、当該学年団と協力し安易な欠席が減少するように効果的な対策をとっていきたい。
<p>生徒指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生命を大切にす心や他人を思いやる気持ちの醸成と人間としての在り方生き方に関する指導の充実 品位ある身だしなみ及びマナー意識の確立(生徒、職員への啓発活動) 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳Lの実践(1思いやり言葉を作成しよう 2 情報モラル学習 3ルールの意味) 節度ある身だしなみから品位のある身だしなみへ、様々な指導を通して生徒に規範意識を持たせるための啓発活動を行い、問題行動の減少に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 現行の生徒手帳を来年度よりスケジュール管理や活動記録を記入できるタイプ(A5サイズ)のものに変更する。毎日のスケジュール管理を身につけることは基本的な生活習慣の乱れ防止につながる。また、多くの体験を振り返り、経験に変え、学びへと進化させることは「なりたい自分」を支え、生徒の自信へとつなげていくことが期待できる。(自己肯定感の高揚)
<p>進路指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> 総合学科の特色を生かしたきめ細かい進路指導とキャリア教育の一層の充実をとおして生徒の多様な夢を実現させるとともに、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度の育成 「高校生のための学びの基礎診断」、「大学入学共通テスト」、「英語4技能検定活用」、「総合型選抜」、「学校推薦型選抜」等、新しい入試制度への対応 就職支援員と協力・連携して、業務の精選と効率化を確立 	<ul style="list-style-type: none"> 進学者対象に補習等を実施し、学習習慣の定着と基礎学力、知識・技能の伸長を図る。さらに、得られた知識を活用して、自ら課題を発見しその解決のための思考力・判断力・表現力等、多様な進路志望先に対応した学力・実践力を養成する。 就業体験及び就職ガイダンス等への参加をとおして社会と連携し、社会の担い手として必要な生徒の資質・能力を育み、社会人として相応しい職業観を形成させる。 教員に対しては各種研修や研究会、生徒に対しては、学校内外のガイダンス、「夢ナビライブ」等の大学の模擬授業や外部講座などへの積極的な参加を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> H31「高校生のための学びの基礎診断」、H32「大学入学共通テスト」・「英語4技能検定活用」、「総合型選抜」・「学校推薦型選抜」の対応に向けて各教員、教務部等の分掌間で協力して対応していきたい。 一層のキャリア教育の充実を図るため、校内企業説明会や1日職場体験などの進路行事の内容を学校や生徒の実態を考慮し、生徒が「何を・どのように学ぶか」「何が出来るようになるか」を組み立て、総合的な探求の時間を総合推進部と連携実施できるように、学科の特色を生かして改善したい。 H30年度に引き続き、業務の精選、効率化を図りたい。
<p>保健厚生</p>	<ul style="list-style-type: none"> ごみの減量化と分別の徹底 教室棟トイレの整備 中庭の景観の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会によるクリーンアップ大作戦とのタイアップを図り、全校的な規模での清掃活動への取り組みを実施する。 清掃ボランティア生徒の意識向上のため教育の充実を図る。 中庭だけに留まらず学校行事などでは色々なところにブランターを設置する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「トイレパトロール」を年間通して行い、合わせて廊下・階段・教室などの清掃区域もチェックさせる。 年2回ほど「環境美化強化月間」を設定し、生徒の美化意識の高揚に努めさせる。 「トイレパトロール」を含め「美化コンクール」を行い、クラスごとの環境整備に対する意識を喚起させる。特に顕著な整備状況のクラスを学年で表彰したりする。
<p>図書研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> 図書室利用者の増加 初任者、5年経験者、10年経験者研修の円滑な運営 (開架、閉架ともに)書籍の整理の徹底。リファレンス機能の充実 あらゆる教科・授業による図書室の活用を念頭にした、図書室の設備・本の配置の再検討 調べ学習の場に適した空間・環境づくり 多忙化解消に向け、各種分担する業務負荷の平準化 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の読書、読書感想文、BOOK WAGON、ビブリオバトル、チャレンジ20などを通して図書室利用の啓発活動を行う。 職員に図書館利用の利便性を訴える。 読書・学習・情報センターとして、それぞれのニーズに応えるべく、書籍の整理を継続して行い、すばやいリファレンス業務につなげ、外部図書館との連携も最大限に活用する。また、教具の常設を検討する。 研修者と綿密に打ち合わせ、事前・事後の指導を行う。 教員間の連絡を密にし、遠慮無く業務の補助を依頼できる雰囲気をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校蔵書だけでなく、リファレンス機能の充実を図ることはやはり難しい。次年度も外部図書館との連携を強化し、ニーズにあった書籍をそろえることを第一目標とした。 それぞれの教員の役割は十分に果たしていたと思う。各教員間の連絡は、十分に機能していたのではないかと。次年度も、より各教員の役割を拡充し、それぞれに活躍できる場を創生していきたい。 ビブリオバトルを図書研修部だけの企画から、より拡大・拡充できないか(例:学年単位の企画)、検討をつづけた。

生徒会	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会主催の学校行事や部活動に各生徒が積極的に参加することにより、主体性・自立性の養成と充実した学校生活を送ることができるためのサポート 	<ul style="list-style-type: none"> 学校祭をはじめとする諸行事において、生徒会執行部が自主的さらには主体的に運営できるように適切なアドバイスを行う。 諸行事において、生徒の適性に応じて自主的かつ積極的に参加できる場を提供する。 部活動の環境整備を進め、より活発な活動ができるようにサポートする。 部活動の活性化に繋がるPR活動を行う。 顧問の先生に、適切な休息日を設ける等練習計画への配慮を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事全般で満足度が高かったため、来年度も継続できるように、執行部が中心となり主体的な行事を運営していく。 顧問の先生による熱心な指導のおかげで、多くの部活動で上位大会への出場を果たし、生徒の技術面、精神面での成長が見えた。来年度も部活動活性化のため、環境面でのサポートをしていきたい。 部活動に係る活動方針を先生方に周知徹底し、実施について協力を継続依頼する。
総合推進	<ul style="list-style-type: none"> 「3年間を見通した身に付けるべき力と活動」の共通認識の上で「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」の内容の検討し、課題解決型学習を第3学年で継続実施 「聞く・考える・伝える力」を身に付けさせる、NIE活動の継続 生徒が活動できるPR活動を推進 総合学科発表会が学校の特色ある行事としてさらに良くなるよう、他分掌とともに計画・提案し実施 	<ul style="list-style-type: none"> 「総合的な学習の時間」(第3学年)の課題解決型学習を学年と協議し推し進める。 「総合的な学習の時間」(第2学年)では、NIEを継続し、他学年でも主体的な活動ができるよう学年団と連携し進める。 学校のPRを生徒主体にし、杏和高校の良さ・面白さをアピールできるPR方法を考える。また、クリアファイルデザインコンテストの応募を1学期にも行う。ボランティア生徒の自主性やプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」の内容の検討を続け、3年間でPDCAサイクルに沿って、力の積み重ねになる計画を組み立てたい。 クリアファイルデザインコンテストの応募者を増やす策を検討し、学校案内など学校PR物に生徒の力を活用し、自己肯定感・有用感・達成感とともに学習活動の成果を地域に発信できるよう企画していきたい。 発表・プレゼンテーションの仕方や、調査研究の内容をさらに濃いものになるよう指導を促し、総合学科発表会の内容の充実を図りたい。指導者の不平等感をなくすよう、発表者の決め方などを教務部と継続して話し合いたい。
情報推進	<ul style="list-style-type: none"> 校務の情報化軽減推進のための校務支援システムの運用範囲の拡張 hirobaTの活用 ホームページの運用・管理 	<ul style="list-style-type: none"> 校務支援システムのグループウェア機能及び生徒管理機能を活用する。 hirobaTの活用を周知徹底する。 各分掌等からの情報をタイムリーにホームページに掲載する。 	<ul style="list-style-type: none"> 校務支援システムの本格的に導入後3年が経過したが、本校の実情に合わせるためには、今後もシステムの改良が必要である。 hirobaTの活用は周知徹底されているが、内容の整理が必要である。 ホームページの更新は、随時実施しており、情報発信量、閲覧回数ともに増加した。
1学年	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣及び安定した学校生活のリズムの確立 学習意欲の向上と学習習慣の確立 卒業後の進路を見据えた科目選択 部活動や学校行事への積極的な取組の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶や身だしなみ、時間遵守などマナー指導を適切に行うとともに、生徒個々の状況把握を心がけ、適切なアドバイスをする。 授業の重要性を呼びかけるとともに、適量の課題を与え、家庭学習の重要性を促し適切な提出指導を行う。 「産業社会と人間」において社会や将来を考えさせ、次年度に向けた科目選択のための指導を充実させる。 学校行事や部活動の取組状況や参加状況を把握し、必要であればアドバイスを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立を継続し、心に問題を抱える生徒のケアも尽力していきたい。 学習面での努力を促していく必要を感じている。 自分の進路を深く考えられた上で、具体的な目標を設定させるとともに、その実現に向けて努力させたい。 学校行事等においては、失敗を恐れず生徒の力で企画・実行できるように意識付けしていき、コミュニケーション能力や自己表現力を身に付けさせたい。
2学年	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立および社会性の育成 学習習慣の確立と学力の向上 進路目標の確立と具体化および進路に関する研究 部活動や学校行事への積極的な参加 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶や身だしなみなどのマナーの重要性やルールを守る必要性に自ら気付き実行できるとともに、集団内で互いを認め合いよい関係を築けるようにアドバイスをします。 家庭学習の重要性を常に呼びかけ、週末課題等を通して学習習慣の定着を図る。 進路についての情報収集や、上級学校体験講座等への積極的な参加を促し、進路実現への具体的な行動を学年全体で指導する。 部活動や学校行事にできる限り関わることで生徒を把握し、意欲的な参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題を抱え欠席、遅刻を繰り返す生徒もいるが、長欠の生徒はいない。引き続き生徒の相談に乗りながら、指導を継続したい。 全体的に家庭等での学習時間が多くないため、その必要性を訴え、各生徒の進路実現に向けた指導を粘り強くしていきたい。 来年度は最上級生になるため、後輩たちに手本になるよう学校行事、部活動にも積極的に取り組ませたい。
3学年	<ul style="list-style-type: none"> 進路実現に向けて常に先を見据え、自ら行動をおこせる生徒の育成 規範意識、帰属意識を持った生徒の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 教員が細心まで指示をすることなく、自ら判断を行う機会を増やす。 社会人として恥ずかしくない常識の会得・生活習慣の確立を求める。 学校行事への積極的な参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 精神的な原因で欠席が増え、長期化する生徒が複数いた。担任を中心に面談等を繰り返したが、改善が難しい生徒も数名いた。 就職・進学指導は学級や学年の枠を越えて指導体制が整えられ、好結果に繋がった。センター試験は欠席者もなく122名が受験し、その後の入試に生かすことができた。 大学入試の「定員厳格化」の影響は予想以上に大きく、推薦・一般ともに苦戦が強いとされた。今後の進学指導においては、近年の入試動向に関する情報の共有と対策が今まで以上に大切であると感じた。
<p style="text-align: center;">総合評価</p> <p>総合学科ならではの学びの中で生徒はさまざまな価値観に触れ、またさまざまな体験を経てたくましく成長している。その成果が3年生の進路結果や学校行事、マスコミへの登場などの形で表われていた。現状に留まることなく、各分掌、各学年が来年度に向けて新しいさまざまな取組を予定しており、さらなる飛躍を期待したい。</p>			